

# 建設業における

# 定石デザイン

日本大学理工学部まちづくり工学科  
特任教授

天野 光一



Koichi Amano

## 様々なデザイン

景観という、いかに美しいものや、まちや、くをつくるかという分野に長年携わってきた。土木の分野でも土木学会に景観・デザイン委員会ができて間もなく三〇年、土木学会デザイン賞が創設されて二〇年以上となった。

デザインとは美しいことを一つの目的とした設計行為と割り切っても、そのデザインには様々なものがあると考える。工場生産の「製品」のデザインは別として、設計施工を伴う建築や土木構造物のデザインを考えると、少なくとも以下の三種類が存在していると考ええる。一つ目が、とある場所におけるその場所に最も適した、場合によってはその場所でもしかあり得ない、人口に膾炙されやすい「デザイン」である。建築で言えば、アントニ・ガウディによるサグラダ・ファミリアが好例であろう。これは、あそこでもしかあり得ないといって良い。二つ目が、そのデザインが普遍化し、一つの類型もしくは様式となるような「デザイン」

である。ゴシック様式や、ミース・ファン・デル・ローエのシーグラムビルなどがこれにあたる。三つ目は、デザインという言葉が使用されるか微妙な、ガイドラインなどの定石に基づいた普通に良い「デザイン」である。  
本稿では、三つ目の定石デザインに焦点をあて、美術品と対極的なものとして、柳宗悦らによって評価の確立している民藝の議論を頼りしながら、その美と必要性について述べてみたいと思う。

## 定石デザインの 目指すべき美

民藝とは「民衆的工藝」の略語で、民衆が日々用いる工芸品であり、美術品とは異なる性格の美を持っていると語っている。柳宗悦は「民藝とは何か」の中で民藝の美の特質について以下の七つをあげている。一つひとつ社会基盤施設の定石デザインと比べながら述べていこう。

第一に、実用性をあげている。美

が用途と結合しており、美を生活の外に追いやるのではなく、その内面に見出さねばならないとしている。社会基盤施設もごく一部を除けば実用性を持っている。社会基盤施設も、実用性を持ちつつ美しさを目指すことが定石デザインの姿であろう。

第二に、多量に作られること、かつ廉価であることをあげている。定石デザインでつくられる構造物としての社会基盤施設は、その構造物が唯一無二ではなく、同様の構造物は数多く作られているといつて良い。また、特別な場合を除いて、通常社会基盤施設整備に使用できる範囲の価格すなわち廉価であったと想像できる。人口に膾炙されるデザインと大きく異なる点である。

第三に、平常性をあげている。変わったものを求めない、病的でない「常態の美」が重要だとし、最も自然な状態にある美は結局最も美しいといっている。社会基盤施設も、普通に見える美しさが重要であろうし、その美こそが定石デザインの

目指す美であろう。

第四に、健康性をあげている。健康美は最も多く社会の幸福を約束するものだといっている。社会基盤施設も、当然どこも病んでおらず、労働(使用)に耐えなければならぬ。これも、社会基盤施設の定石デザインの目指すべき美である。

第五に、単純性をあげている。質素な簡単なものが民藝品であり、単純美こそ民藝美の特権であるといっている。これは、第一、第二の特質とも通じるが、飾った感じの少ないものがよい。社会基盤施設の定石デザインでは、基本は質素な単純美がその目標であるが、抑制のきいた飾りも含めた美も考慮すべきであると考ええる。

第六に、協力をあげている。近世の美術品は作者の名を誇る、他の誰もできないような仕事であり、個性の表現となっている。それに対して、民藝品は無銘性が重要であり、自己の名で作られるのではなく、大勢の人の協力の仕事であるとしている。社会基盤施設は、基本的には著

## 定石デザインの必要性

名なデザイナーの作品とは限らない。そこが評価されるべきである。人口に膾炙されるデザインとの最も大きな相違点かもしれない。第七に、総合的に国民性をあげている。民藝に乏しい国家は国民的特色が弱い国だと指摘している。さらに国家的なるものを互いに尊敬しあうことに将来の世界の平和がある、とまで言っているが、これは民藝の美学から呼びおこされる柳の信念であろう。言い過ぎを覚悟で書けば、社会基盤施設の定石デザインが一般的なものとなり、時々人口に膾炙されるデザインも見られるようになれば、国際的にも誇れる日本のデザインといっても良いかもしれない。

柳は前述した「民藝とは何か」の中で、何故特に民藝が論ぜられねばならぬかについて以下に示す四つの理由をあげている。一、民藝品の美しさがほとんど認められていない、

二、上等品(民藝品以外の美術作品)が過剰に評価されるがゆえに、美の評価基準がゆがんでいる、三、民藝品の中にこそ工藝の美がより安定に保証されている、四、上等品(美術作品)の中で美しいものは、民藝品と同じ基礎に立っている。

社会基盤施設の定石デザインもほぼ同様であると考ええる。〇〇賞といったデザイン賞などを獲得しやすいこともあって、人口に膾炙されるデザインのみが注目されている。それはそれで重要であるが、定石デザインをさげすむ理由にはならない。普通に定石(マニュアル、ガイドライン)に沿って行われた定石デザインの重要性は、真面目に議論され、評価されなければならぬ。人口に膾炙されるデザインの評価も、定石デザインの美しさを論じつつ、なされるべきであろう。そんな設計行為があるとは思いたくないが、美しさが目的に入っていない設計と、定石デザインを同一視するようなことはあつてはならないことを強調して、この稿を終わりたい。